

病害虫防除技術情報第 2 号

令和 4 年 4 月 11 日

三重県病害虫防除所

越冬期間の気温は、平年並に推移したため、スクミリンゴガイの越冬生存率は平年並と予想されます。移植後の気温に注意して適期に対策を行ってください。

1. 対象作物： 水稻

2. 対象病害虫名： スクミリンゴガイ

3. 発生状況

- (1) 近年、伊賀地域を除く県内全域でスクミリンゴガイの発生が増加しています。その発生区域は海岸近くから内陸に広がっています。
- (2) 昨年 6 月のスクミリンゴガイの被害発生圃場率は 8.5%(平年 4.9%)と高い状況でした。
- (3) 津のアメダスデータにおける 2021 年 12 月～2022 年 2 月の平均気温は 6.4℃(平年 6.6℃)と平年並で、圃場内の越冬生存率は平年並と考えられます。
- (4) 1 か月予報(4 月 7 日・名古屋地方気象台発表)によると、向こう 1 か月の平均気温は平年より高くなる予報です。

4. 防除対策

1) 薬剤による防除

- (1) 4 月移植では、スクミリンゴガイの活動を確認次第散布しましょう。目安は移植から 3 週間までで、この時期の水温が 17℃を超えると被害が発生する恐れがあります。スクミリンゴガイが活動していることを確認してから使用基準に従い実施して下さい。

- (2) 5 月移植では、水温が概ね 17℃以上となり移植直後から被害が発生するため移植時の散布で効果が高くなります。
- (3) 5 月後半以降の移植では、水温が 20℃以上であり、湛水すると貝が水中に現れるため植え代前の石灰窒素散布が有効です。(ただし、基肥量の調整が必要です)
- (4) 薬剤は三重県農薬情報システム https://www.nouyaku_sys.com/noyaku/user/top/mie で 検索することができます。
- (5) 薬剤は湛水状態(水深 3～5cm)で処理し、7 日間は落水やかけ流しをしないでください。用水路など水田以外の場所には散布できません。
- (6) 殺貝剤と食害防止剤を併用する場合は、殺貝剤を散布後 7 日以降に食害防止剤を散布しましょう。殺貝剤を散布する前に、食害防止剤を散布することは控えてください。

2) 耕種的防除

- (1) スクミリンゴガイは水深が浅いと活動が制限されるため、水深 4cm 以下の浅水で管理すると被害が少なくなります。薬剤散布後 7 日間の止水期間終了後に開始し、被害を受けにくい 5～6 葉期になるまで行いましょう。
- (2) 入水口、出水口に約 9mm 以下の目合いの網を張り、水路からの侵入を防ぎましょう。
- (3) 例年発生が見られる水田で使用した農業機械は、作業後に十分洗浄し、未発生水田に貝を持ち込まないように注意しましょう。

スクミリンゴガイ防除対策マニュアルが、以下の URL で公開されていますので参考にしてください。

<https://nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/mie>

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。